



# きりのみ

<https://school.setagaya.ed.jp/fuwa/>

## 優しい心に力をもらって…

校長 須藤 央

ふたりの女の子の物語です。

その出来事を思い出すと、私は今でもなんだか心があたたかくなります。ちょっぴり内気で、とても優しい心をもった女の子のお話です。

入学式から3日ほど過ぎたある朝のこと。お母さんと一緒に手をつないで学校まで来たのに、1年生のその女の子は急にお母さんと離れるのがさみしくなって、正門のところでシクシク泣き始めてしまいました。お母さんを困らせてしまっているのはわかっているのに、目からあふれてくる涙がどうしても止まらないのです。胸の中は心細さでいっぱい、それが涙になって零れ落ちてくるようです。



その時です。聞き覚えのある声が降ってきました。

「どうしたの？ 一緒に行こう。」

幼稚園の時によく遊んでくれた、2年生の女の子の声でした。サッと手をつないでくれて、昇降口まで一緒に歩いてくれたのです。ギュッとつないだ手はほんのりと温かく、お姉さんの優しい気持ちが伝わってくるようでした。まだ涙は止まらなかったけれど、何だかお母さんと離れても頑張れそうな気がしてきました。振り向くと、お母さんはまだ心配そうな顔でこちらを見つめています。またちょっぴり心細くなりかけたけど、昇降口に入るときに、もう一度振り返ってみると、「うん、大丈夫。」とお母さんは笑顔で頷いてくれました。

これは、4月初めのある朝の、正門での光景をもとに創作したお話です。1年生に限らず、だれでも（大人でも）新しい環境に慣れるまではやっぱり不安になってしまうもの。そんなときに支えになるのは、やはり周囲の人の優しさや温かさ、明るさです。優しい心に力をもらって、次の一歩を踏み出せるのです。きっと、この1年生の女の子も、いつか違う場所で、ほかの誰かに温かい手を差し伸べてくれることでしょう。

私自身も、これまでの人生を振り返ってみると、いつも誰かの言葉や行動に勇気をもらって、目の前の壁から逃げずに向き合えてきたように思います。（今現在もです…）

毎日学校の中を見回っていると、こうした優しい気持ちや思いやりの心を、意外といろいろなところで見つけることができます。気を付けていないと見落としてしまうくらい本当に何気ない行動なのですが、こうした光景を目にしたとき、私は何とも言えず幸せな気分になるのです。

優しい心をもった子どもたちがたくさんいるこの深沢小学校が、私は大好きです。



### 入学式を終えて

第2学年担任 三崎 早恵

2年生は、入学式で歓迎のことばと校歌を披露しました。元気一杯がんなった子どもたちの声を一部紹介します。

- 舞台に立つと1年生がたくさんいて緊張しました。
- 緊張したけど、可愛い1年生がいたので元気が出ました。
- 1年生が喜んでくれて嬉しかったです。
- 春休みにいっぱい練習して、本番はうまく行ってよかったです。
- 「1年生のために頑張るぞ」という気持ちでやりました。
- たくさん人がいたから、緊張したけど大きな声でことばを言えました。
- 入学式に参加できて嬉しかったです。1年生が喜んでる姿を見て、こっちも嬉しくなりました。

### <すぐーる登録ご協力のお願い>

本年度より、学校からの配布物を紙からすぐーるでの配信にきりかえて参ります。つきましては、登録がまだの方は、早めによりしくお願いいたします。



